

## 平成 30 年度第 3 回生涯学習部研修会活動報告

新人教育プログラム研修会を開催致しましたので以下に報告します。

日 時：平成 30 年 10 月 28 日（日） 9:00～受付

会 場：山形保健医療大学 第 1 講義室

内 容：

- |             |                    |           |           |
|-------------|--------------------|-----------|-----------|
| 9:30～10:30  | 地域リハビリテーション (C-5)  | 山形県立保健医療大 | 赤塚 清矢 先生  |
| 10:40～11:40 | ティーチングとコーチング (E-2) | みゆき会病院    | 黒田 昌宏 先生  |
| 12:40～13:40 | 内部障害の理学療法 (C-3)    | 公立置賜総合病院  | 海老名 陽介 先生 |
| 13:50～14:50 | 症例報告・発表の仕方 (B-4)   | 鶴岡市立荘内病院  | 池田 浩徳 先生  |
| 15:00～16:00 | 社会の中の理学療法 (D-1)    | 山形県立中央病院  | 岩田 章洋 先生  |
| 16:00～16:20 | 認定・専門理学療法士について     | 生涯学習部部長   | 齋藤 高興 先生  |

参加者：C-5：45 名、E-2：42 名、C-3：42 名、B-4：39 名、D-1：38 名

スタッフ：

- 齋藤 高興（鶴岡協立リハビリテーション病院）
- 近野 友紀（山形ロイヤル病院）
- 佐伯 新太郎（北山形公立病院）
- 富本 裕樹（三友堂病院）
- 舟山 悦子（山形済生病院）

『平成 30 年度第 3 回生涯学習部研修会 感想』

山形済生病院 遠藤健介

今回の研修会にて、「症例報告・発表の仕方」のテーマでは症例検討の必要性や書き方、発表についてわかりやすく学ぶことができました。特に、介入方法に関しては常に悩みながら介入を行っているため、症例報告を通して様々な知見を取り入れることがとても重要だと思えます。このテーマでは、そのための準備として必要なことを講義していただきとても参考になりました。現在担当している症例を来年の県学会にて発表予定のため、資料をもとにより良い症例報告ができるよう努力していきたいです。

新人プログラムは今回の研修で終了ですが常に新人の気持ちを忘れず、認定や専門領域の学習も視野に入れ、これからの生涯学習に励んでいきたいです。

講師の先生方、生涯学習部の先生方、お忙しいところ研修会の準備、開催をしていただきありがとうございました。

『平成 30 年度第 3 回生涯学習部研修会 感想』

山形済生病院 押野真央

ティーチングとコーチングがテーマの講習では、2人1組になりコミュニケーションの練習として、傾聴する、相手の話を要約し質問するといったことに取り組みました。話を要約し質問することは難しかったですが、相手が一番伝えたいことを理解するためには必要なことだと感じました。コミュニケーションは患者様と信頼関係を築くために最も重要であると考えます。今後は患者様だけでなく、職場のスタッフとのコミュニケーションでも意識していきたいと思えます。

研修会を通して、一人前の理学療法士になるためには日々学んでいかなければならないことがたくさんあると感じました。今後も研修会や勉強会へ積極的に参加し、幅広い知識や技術を身につけ臨床の場で活かせるようにしていきたいと思えます。

講師の先生方、生涯学習部の先生方、お忙しいところ研修会を開催していただきありがとうございました。

